



CQM(超短期経済予測モデル)

日本経済(週次)予測(2015年1月19日)

稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)

内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

ポイント

▶今回予測で更新されたデータは、民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出、公的固定資本形成、純輸出及び主要デフレータの予測値に影響を与える。

▶10-12月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された。緩やかながら前期より回復が期待できる。

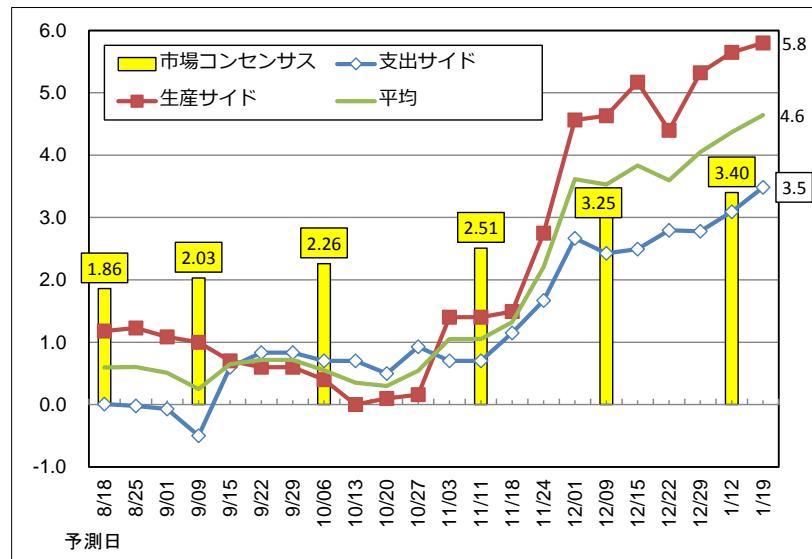
▶10-12月期の実質民間企業設備、実質政府最終消費支出及び実質公的固定資本形成の予測値はいずれも先週から下方修正された。

▶12月の輸出入物価指数と11月の国際収支状況が更新された。結果、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。

▶今週の超短期モデルは10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.5%と予測。先週から幾分上方修正。内需が3期ぶりに拡大し純輸出も成長に貢献するためである。

CQM予測の動態：実質GDP成長率

2014年10-12月期(%, 前期比年率換算)



<10-12月期実質民間最終消費支出、緩やかながら前期より回復が期待できる>

今回の予測で更新されたデータは、12月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、11月の毎月勤労統計(確報値)、第3次産業活動指数、消費総合指数、情報サービス業売上高、機械受注統計及び国際収支状況である。これらは、民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出、公的固定資本形成、純輸出及び主要デフレータの予測値に影響を与える。

11月の消費総合指数は前月比+0.9%上昇した。実績値は事前予測を上回ったため、10-12月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された(前期比+0.5%→+0.7%)。緩やかながら前期(+0.4%)より回復が期待できる。

11月の民間コア機械受注及び情報サービス業売上高が更新された結果、10-12月期の実質民間企業設備の予測値は先週から小幅下方修正された。11月の公務等活動指数及び公共工事が更新された結果、10-12月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から変化がなかったが実質公的固定資本形成の予測値は下方修正された。

12月の国内企業物価指数は前年比21カ月連続のプラスとなったが、インフレ率は6カ月連続で減速。消費税の影響を除いた指数は2カ月連続のマイナスである。12月の輸出入物価指数と11月の国際収支状況が更新された。結果、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。

これらの結果、今週の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比+0.9%、同年率+3.5%と予測。先週の予測(+3.1%)から幾分上方修正された。10-12月期は内需(前期比+0.6%)が3期ぶりに拡大し純輸出(同+0.3%)も成長に貢献するためである。結果、2014年の実質GDP成長率を暦年ベースで+0.2%、年度ベースで-0.7%と予測している。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690